

尾道工場に特殊MC

機械加工強化 長尺品対応 メタルテック、需要開拓

【福山】メタルテック（広島県福山市、木村武美社長）は、機械加工の能力を強化する。尾道工場（同尾道市）に、長尺物の加工が可能な特殊仕様のマシニングセンター（MC）を導入した。建設機械、医療機械の部品や自動車部品の金型など新しい需要を開拓。現在の年間売上高が約8億円のところを5年後に20億円を目指す。

導入したMCは二デめ、長尺物の加工が可能な特殊機。メーカー「KCV80」で廃盤になっていた機種を、一部改良して約3050mm×8200mmの10年ぶりに生産を再開し、約と左右に長いたさせたといい。



この加工寸法で通常使われる門型MCに比

する柔軟な使い方も

尾道工場に導入した立型MC。3mの長尺物の加工が可能だ

▲設置場所を小さくできる。加工対象物（ワーク）の着脱が容易なことや、小さいワーク

このことからこの機械を選定した。投資額は5500万円。

メタルテックはここ数年、尾道工場を中心に設備投資を積極化してきた。敷地面積約1000平方メートルで、2017年から借りていた工場の土地と建屋を21年に取得。22年に事務棟を建設し顧客対応やCAD・CAMデータの入力などの体制を整備した。

工場には恒温室を設けて高精度加工に対応。今回導入したMC

以前に、横型5軸MC1台をはじめ立型MC3台、ワイヤカット放電加工機と旋盤をそれぞれ1台と、順次設備を増強してきた。投資額は総額で5億円弱。

同社はさまざまな協力会社と分担して機械加工を受注する商社的な仕事を得意とし、約120社の顧客を抱える。自社の加工能力を強化して特殊加工への対応力を向上。今後はさらにロボットによる自動化投資を進めていく。